

温泉成分等のご案内



南郷温泉
しゃくなげの湯

源泉名
 泉質

南郷温泉 しゃくなげの湯
 アルカリ性単純温泉(弱アルカリ性低張性高温泉)

温泉1kg中の成分

泉温(分析時)

55.4℃

水素イオン(pH値)

9.37

(1)陽イオン

成分	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
ナトリウムイオン(Na^+)	130	5.64	92.95
カリウムイオン(K^+)	1.7	0.04	0.72
マグネシウムイオン(Mg^{2+})	<0.01	0	0
カルシウムイオン(Ca^{2+})	7.55	0.38	6.21
鉄(II)イオン(Fe^{2+})	<0.01	0	0
マンガンイオン(Mn^{2+})	<0.005	0	0
アルミニウムイオン(Al^{3+})	0.07	0.01	0.12
陽イオン計	139	6.07	100

(2)陰イオン

成分	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
フッ素イオン(F^-)	12.9	0.68	11.39
塩素イオン(Cl^-)	60.5	1.71	28.67
硫酸イオン(SO_4^{2-})	124	2.58	43.43
炭酸水素イオン(HCO_3^-)	0.6	0.01	0.17
炭酸イオン(CO_3^{2-})	25.2	0.84	14.14
ホウ酸イオン(BO_2^-)	5.6	0.13	2.2
陰イオン計	229	5.95	100

(3)遊離成分

ア、非解離成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸(H_2SiO_3)	56.5	0.72
非解離成分計	56.5	0.72

イ、溶存ガス成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素(CO_2) (遊離炭酸)	0	0
遊離硫化水素(H_2S)	0	0
溶存ガス成分計	0	0

(4)その他の微量成分

銅イオン、総ひ素、鉛イオン、総水銀	検出せず。
-------------------	-------

分析年月日
 登録分析機関
 温泉分析登録番号

平成19年6月18日
 (社)群馬県薬剤師会
 群馬薬第2号

入浴を控えた方がよい疾患及び症状

急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般的に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)。

入浴をすると良い疾患及び症状

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くびき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進。

温泉利用方法及び注意事項

- ア、温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当り1回程度とすること。その後は1日当り2回ないし3回までとすること。
- イ、温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適當とすること。
- ウ、温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわりまたは浴湯反応)が現われることがある。「湯あたり」の間は、を減じまたは入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- エ、以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 - (1)入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 - (2)入浴中は、運動浴の場合は別として一般的には安静を守る。
 - (3)入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起しやす人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉剤取るのがよい)。
 - (4)入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - (5)次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とす・高度の動脈硬化症 ・高血圧症 ・心臓病
 - (6)食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
 - (7)飲酒しての入浴は特に注意する。
 - (8)熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こす事があるので十分注意をする。